

# 漁況海況予報事業浅海定線調査

## (要 約)

富永 祐二・尾坂 康・永峰 文洋・工藤 秀雄・浜田 勝雄

この調査は、陸奥湾内の海況の特徴や変化を把握し、湾内漁業および増養殖業のための予報や参考資料とすることを目的として、昭和47年度から国庫補助を得て実施しているものである。その詳細については脚註の資料に報告済みであるのでこれを参照されたい。

### 調 査 方 法

調査地点……………6定点

調査水深……………0, 5, 10, 20, 30, 40, 50mおよび底層

調査項目……………透明度、水色、水温、塩分、PH、卵稚魚、プランクトン、海底土強熱減量

### 調 査 結 果

- (1) 最高水温は8月下旬に現われ、24.8℃が観測された。これは昭和47年の24.0℃より幾分高かった。なお茂浦における定地観測データも、昭和48年の夏は異常に高水温であったことが知られている。最低水温は3月中旬に現われ5.0℃を示した。
- (2) 塩分濃度は最高34.18%、最低32.11%を示した。5月から9月頃までは低塩分濃度が現われることが多かった。
- (3) 透明度は7～8月頃に特に高くなり20mを越すこともあったが、その他の時期には15m程度のこと多かった。
- (4) プランクトン沈澱量は、春期にはやや高く0.75ccを越えることもあったが、その他の時期には0.55cc～trであった。
- (5) 卵稚魚については査定中。



詳細については、「漁況海況予報事業浅海定線調査、青森県水産増殖センター昭和49年6月」に報告済み。